

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型(絶対収益追求型)	
信託期間	信託期間は2016年1月20日から2024年12月16日(繰上償還決定前は2025年10月10日)までです。	
運用方針	投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要運用対象	ピクテ マルチストラテジーリンクファンド(SMA専用)	下記のマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	ピクテ マルチストラテジーリンク マザーファンド	ゴールドマン・サックス・インターナショナルによって設立された海外籍特別目的会社の発行する円建債券を主要投資対象とします。
組入制限	ピクテ マルチストラテジーリンクファンド(SMA専用)	外貨建資産への投資は行いません。
	ピクテ マルチストラテジーリンク マザーファンド	外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	原則として、毎年10月10日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益の分配を行います。分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益及び売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。分配金額については、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

## ピクテ マルチストラテジー リンクファンド(SMA専用)

### 償還報告書(全体版)

第10期(償還日 2024年12月16日)

#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申しあげます。  
さて、当ファンドはこのたび、投資信託約款の規定に基づき、繰上償還いたしました。ここに謹んで設定以来の運用状況と償還内容をご報告いたしますとともに、受益者のみなさまのご愛顧に対しまして厚くお礼申しあげます。  
今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申しあげます。

#### 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

〒105-0011 東京都港区芝公園一丁目1番1号

ホームページ <https://www.smtam.jp/>

#### 償還金のお知らせ

1万口当たり償還金

10,301円58銭

- 口座残高など、お客さまのお取引内容についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当償還報告書についてのお問い合わせ  
フリーダイヤル:0120-668001  
(受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。)

**【本償還報告書の記載について】**

- ・基準(償還)価額および税込分配金は1万口当たりで表記しています。
- ・原則として、数量、額面、金額の表記未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しています。
- ・一印は、組入、異動等の該当がないことを示します。
- ・設定日の基準価額は当初設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。
- ・指数に関する著作権等の知的財産権およびその他の一切の権利は指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

## 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額			債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比	純 資 産 額
	(分配落)	税 込 金 配 分	期 騰 落 中 率			
設定日 (2016年 1月20日)	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 0.5
第 1期 (2016年10月11日)	10,075	0	0.8	98.0	—	10,512
第 2期 (2017年10月10日)	10,373	0	3.0	79.7	—	617
第 3期 (2018年10月10日)	10,167	0	△2.0	97.4	—	1,502
第 4期 (2019年10月10日)	10,100	0	△0.7	97.0	—	1,028
第 5期 (2020年10月12日)	10,677	0	5.7	97.7	—	886
第 6期 (2021年10月11日)	10,559	0	△1.1	97.6	—	966
第 7期 (2022年10月11日)	9,829	0	△6.9	95.0	—	706
第 8期 (2023年10月10日)	9,977	0	1.5	94.8	—	218
第 9期 (2024年10月10日)	10,229	0	2.5	97.1	—	99
(償 還 日) 第10期 (2024年12月16日)	(償還価額) 10,301.58	—	0.7	—	—	73

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 債券先物比率は「買建比率－売建比率」です。

## 当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額		債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比
		騰 落 率		
(当 期 首) 2024年10月10日	円 10,229	% —	% 97.1	% —
10月末	10,240	0.1	97.2	—
11月末	10,292	0.6	101.6	—
(償 還 日) 2024年12月16日	(償還価額) 10,301.58	0.7	—	—

(注1) 騰落率は期首比です。

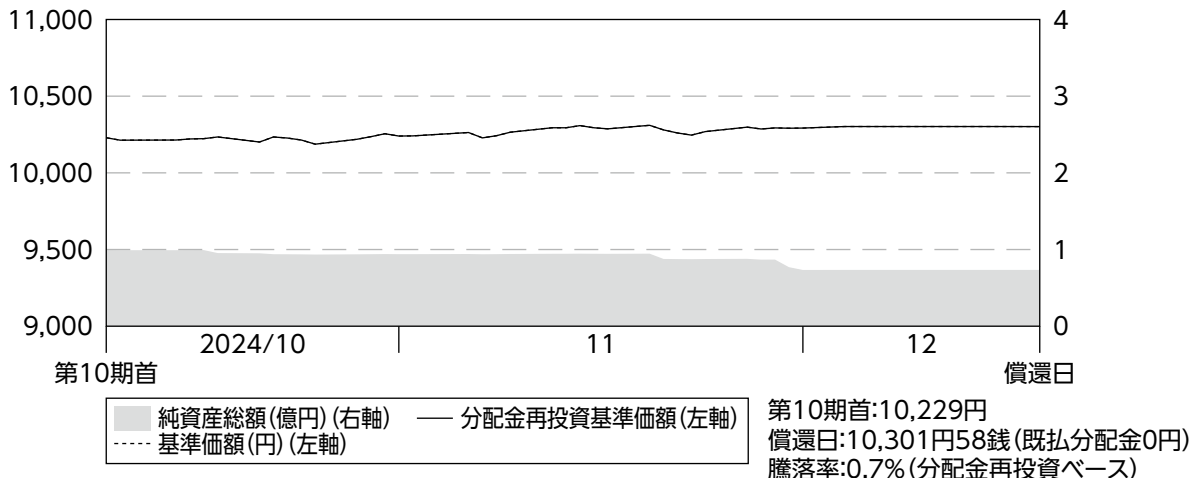
(注2) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 債券先物比率は「買建比率－売建比率」です。

当ファンドの運用の基本方針に適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を特定しておりません。

## 当期中の運用経過

### 基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2024年10月10日の値を基準価額に合わせて指数化しています。

### 基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は、米国大統領選挙の不透明感や新政権に対する期待と懸念が混在する中、また、米欧で追加利下げが実施された中で、ほぼ横ばいとなりました。

戦略別では、新興国株式(除くアジア)やグローバル消費関連株式がプラスに寄与した一方、グレーター・チャイナ株式やスイス株式がマイナスに影響しました。新興国株式(除くアジア)は、ロングサイドで保有するアルゼンチンの銀行について、ミレイ政権下で金融業界が恩恵を受けることへの期待に加えて、中央銀行による11月の政策金利引き下げやインフレの鈍化などを背景に株価が上昇したことを受け、プラスに寄与しました。一方で、グレーター・チャイナ株式は、中国における根強いデプレッションと米国の新政権下での関税強化が懸念されることに加え、中国当局の追加景気刺激策が市場の期待に届かない中で、ロングサイドで保有する中国のインターネット企業が軟調な株価推移となり、マイナスに影響しました。

## 投資環境

世界の株式市場では、米国大統領選挙におけるトランプ氏勝利を受けて、新政権下での規制緩和や減税に対する期待が高まったことなどから米国を中心に上昇しました。世界の債券市場では、米国で新政権下での拡張的な財政政策や関税強化によるインフレ再燃が懸念されましたが、欧米における追加利下げの実施が市場のサポート要因となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

「ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド」受益証券を高位に組み入れる運用を行いました。なお、償還対応として、2024年12月上旬に投資対象ファンドを全て売却しました。

### 【「ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド」の運用経過】

ピクテグループの運用会社が運用する外国投資信託証券「Pictet TR - Diversified Alpha」（以下「Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンド」ということがあります。）の基準価額の値動きに概ね連動する円建債券の組み入れを高位に保つ運用を行いました。

<円建債券と「Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンド」の連動性>

基準価額への反映期間(2024年10月7日~2024年11月27日)のパフォーマンス

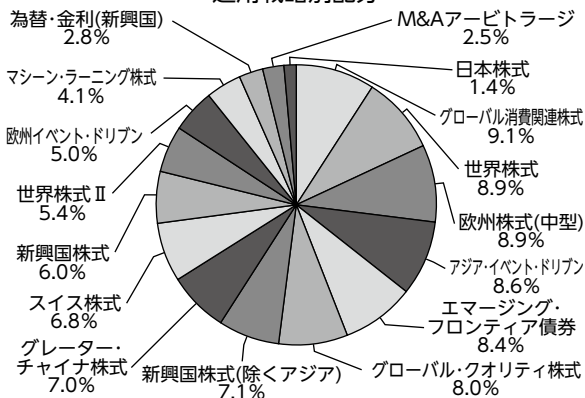
Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンド	0.9%
円建債券	0.8%
差異	△0.0%

差異の要因は、管理報酬等によるものです。

管理報酬控除後の円建債券のパフォーマンスは概ねPictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドのパフォーマンスに連動しています。

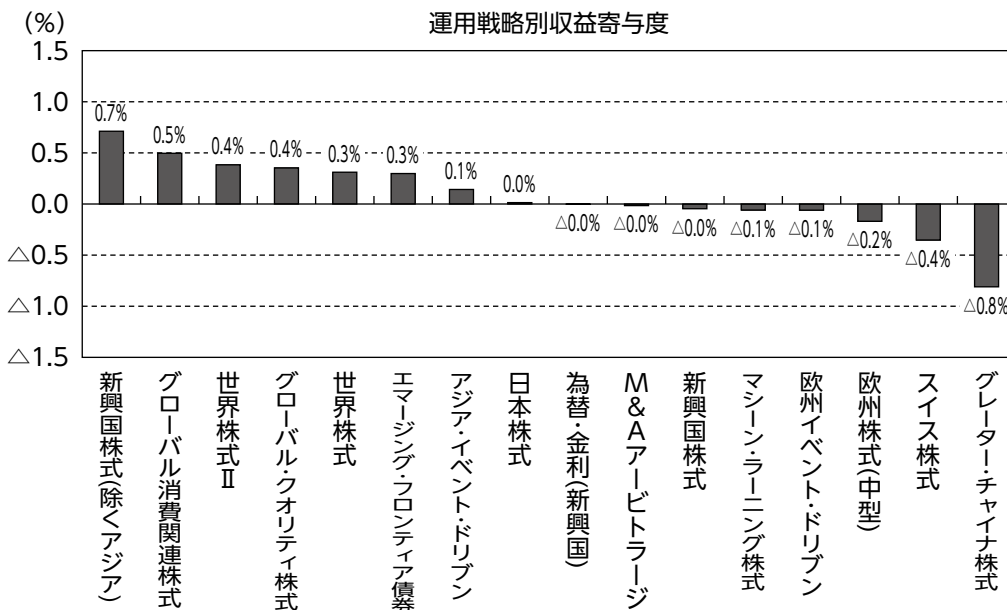
# 当ファンドのポートフォリオ

運用戦略別配分



※配分比率は純資産総額に対する割合です。  
 ※2024年10月末時点のPictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドの運用戦略別配分です。  
 なお、各戦略については、後掲「各戦略の概要」をご参照ください。

運用戦略別収益寄与度



※2024年10月7日~2024年11月27日のPictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドの運用戦略別収益寄与度です。

## 当ファンドのポートフォリオ

### 各戦略の概要

戦略名	概要
グレーター・チャイナ株式	グレーター・チャイナ株式(中国、香港、台湾等)市場におけるロング、ショートのリターンを創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
グローバル・クオリティ株式	グローバル株式を対象に企業の「クオリティ」に注目し、クオンツを駆使してポートフォリオを構築するマーケット・ニュートラル戦略。大型株と流動性の高い銘柄を中心に投資。
スイス株式	スイス株式市場におけるロング、ショートのリターンを創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
欧州イベント・ドリブン	欧州大型株を中心としたカタリストに着目したマーケット・ニュートラル戦略。カタリストとして、コーポレート・イベント(M&Aなど)、構造的な勝者と敗者(規制の変更による影響など)等に分類。
欧州株式(中型)	欧州の中型株を中心としたロング、ショートのリターンを創出を目指す株式マーケット・ニュートラル戦略。
世界株式	ボトムアップのファンダメンタルズ分析とトップダウンのマクロ分析に基づき、グローバル株のロング、ショートのリターンを創出を目指す戦略。
グローバル消費関連株式	グローバルな株式を対象に、主に消費、テクノロジー、メディア、通信等のセクターにおける消費関連株式に注目し、ロング、ショートのリターンを創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
世界株式II	企業のファンダメンタルズ分析に基づき、グローバルな株式を投資対象としたロング、ショートのリターンを創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
為替・金利(新興国)	流動性の高い通貨および金利(G10および新興国)を対象に、為替スポット、フォワード、オプション等を主要ツールとして使用し、絶対リターン獲得を目指す為替戦略。
エマージング・フロンティア債券	主にフロンティア市場(南米、東欧、アフリカ、中央アジア、中東、アジア太平洋の国々)を投資対象とする債券戦略。デュレーション・リスクを抑制し、金利の方向性などからアルファ獲得を目指す。
アジア・イベント・ドリブン	アジア株式でカタリスト(コーポレート・イベント(規制変更や株主還元など)、M&A等)に着目したマーケット・ニュートラル戦略。
新興国株式	新興国株式のロング、ショートのリターンを創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
新興国株式(除くアジア)	南米、EMEA(ヨーロッパ、中東、アフリカ)の新興国株式市場における、ロング、ショートのリターンを創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
M&Aアービトラージ	米国・欧州市場におけるM&A案件に対し、各ディールのプレミアム水準および案件完了に関するリスク等の詳細な分析を行い、裁定取引の機会を発掘することでアルファ獲得を目指す合併アービトラージ戦略。
日本株式	日本株式を投資対象としたファンダメンタルズ・アプローチによる株式マーケット・ニュートラル戦略。
マシーン・ラーニング株式	グローバル株式を対象に、独自の非線形モデルに基づき銘柄選定・ポートフォリオ運用を行うシステムティック・マーケット・ニュートラル戦略。

<Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドについては、運用会社からの情報に基づき掲載しています。>

## 当ファンドの組入資産の内容

---

### ○組入ファンド

償還時における該当事項はありません。

### ○資産別配分



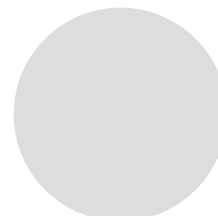
短期金融資産等  
100.0%

### ○国別配分



日本  
100.0%

### ○通貨別配分



円  
100.0%

(注)比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

---

当ファンドの運用の基本方針に適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を特定していません。

## 分配金

---

該当事項はありません。



## 設定以来の運用経過

---

主要投資対象ファンドの「ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド」受益証券を高位に組み入れる運用を行いました。償還対応として、2024年12月上旬に投資対象ファンドを全て売却しました。

### 【基準価額の主な変動要因】

#### <第1期～第2期>

主要投資対象ファンドの「ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド」の基準価額が上昇したことから、当ファンドの基準価額(分配金再投資ベース)も上昇しました。

#### <第3期～第4期>

主要投資対象ファンドの「ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド」の基準価額が下落したことから、当ファンドの基準価額(分配金再投資ベース)も下落しました。

#### <第5期>

主要投資対象ファンドの「ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド」の基準価額が上昇したことから、当ファンドの基準価額(分配金再投資ベース)も上昇しました。

#### <第6期～第7期>

主要投資対象ファンドの「ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド」の基準価額が下落したことから、当ファンドの基準価額(分配金再投資ベース)も下落しました。

#### <第8期～第9期>

主要投資対象ファンドの「ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド」の基準価額が上昇したことから、当ファンドの基準価額(分配金再投資ベース)も上昇しました。

#### <第10期>

主要投資対象ファンドの「ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド」の基準価額がほぼ横ばいとなったことから、当ファンドの基準価額もほぼ横ばいとなりました。

# 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	(2024年10月1日~2024年12月16日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	7円	0.069%	(a) 信託報酬 = [期中の平均基準価額] × 信託報酬率 期中の平均基準価額は10,266円です。 信託報酬に係る消費税は当(作成)期末の税率を採用しています。 委託した資金の運用、基準価額の計算、開示資料作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(投信会社)	(4)	(0.036)	
(販売会社)	(3)	(0.026)	
(受託会社)	(1)	(0.006)	
(b) 売買委託手数料	—	—	(b) 売買委託手数料 = $\frac{[期中の売買委託手数料]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(—)	(—)	
(新株予約権証券)	(—)	(—)	
(オプション証券等)	(—)	(—)	
(新株予約権付社債(転換社債))	(—)	(—)	
(投資信託証券)	(—)	(—)	
(商品)	(—)	(—)	
(先物・オプション)	(—)	(—)	
(c) 有価証券取引税	—	—	(c) 有価証券取引税 = $\frac{[期中の有価証券取引税]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(—)	(—)	
(新株予約権証券)	(—)	(—)	
(オプション証券等)	(—)	(—)	
(新株予約権付社債(転換社債))	(—)	(—)	
(公社債)	(—)	(—)	
(投資信託証券)	(—)	(—)	
(d) その他費用	1	0.008	(d) その他費用 = $\frac{[期中のその他費用]}{[期中の平均受益権口数]} \times 10,000$ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、信託事務の処理等に要するその他諸費用
(保管費用)	(1)	(0.006)	
(監査費用)	(0)	(0.001)	
(その他)	(—)	(—)	
合計	8	0.077	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。  
なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

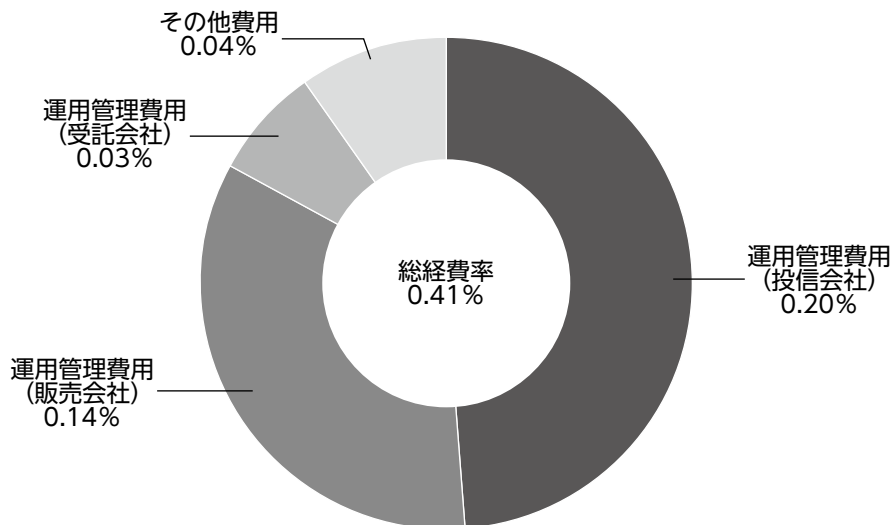
(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## <参考情報>

### 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は0.41%です。



(注1)各費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2)各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3)各比率は、年率換算した値です。

(注4)実質的に投資対象とする円建債券の価格に反映される費用等は含まれておりません。

(注5)上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 売買および取引の状況

### <親投資信託受益証券の設定、解約状況>

	当 期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド	千口 —	千円 —	千口 93,442	千円 99,088

## 利害関係人※との取引状況等

### ■利害関係人との取引状況

区 分	当			期		
	買付額等A	うち利害関係人との取引状況B	B/A	売付額等C	うち利害関係人との取引状況D	D/C
金 銭 信 託	百万円 0.001266	百万円 0.001266	% 100.0	百万円 0.001266	百万円 0.001266	% 100.0
コ ー ル ・ ロ ー ン	621	134	21.6	549	118	21.5

(注)当該取引に係る利害関係人は、三井住友信託銀行株式会社です。

### <ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド>

区 分	当			期		
	買付額等A	うち利害関係人との取引状況B	B/A	売付額等C	うち利害関係人との取引状況D	D/C
金 銭 信 託	百万円 0.503884	百万円 0.503884	% 100.0	百万円 0.503884	百万円 0.503884	% 100.0
コ ー ル ・ ロ ー ン	24,370	5,279	21.7	26,592	5,759	21.7

<平均保有割合 0.4%>

(注1)平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当ファンドの親投資信託所有口数の割合です。

(注2)当該取引に係る利害関係人は、三井住友信託銀行株式会社です。

## 組入資産の明細

償還時における該当事項はありません。

※ 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## 投資信託財産の構成

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 73,464	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	73,464	100.0

## 資産、負債、元本および償還価額の状況ならびに損益の状況

### ■資産、負債、元本および償還価額の状況

項 目	償 還 時 2024年12月16日現在
(A)資 産	73,464,686円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	73,464,251
未 収 利 息	435
(B)負 債	62,275
未 払 信 託 報 酬	61,385
そ の 他 未 払 費 用	890
(C)純 資 産 総 額(A-B)	73,402,411
元 本	71,253,532
償 還 差 益 金	2,148,879
(D)受 益 権 総 口 数	71,253,532口
1万口当たり償還価額(C/D)	10,301円58銭

### ■損益の状況

項 目	当 期 自 2024年10月11日 至 2024年12月16日
(A)配 当 等 収 益	5,501円
受 取 利 息	5,501
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	576,190
売 買 益	717,042
売 買 損	△140,852
(C)信 託 報 酬 等	△62,275
(D)当 期 損 益 金(A+B+C)	519,416
(E)前 期 繰 越 損 益 金	△1,129,886
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	2,759,349
(配 当 等 相 当 額)	(3,847,846)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△1,088,497)
償 還 差 益 金(D+E+F)	2,148,879

(注1) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注2) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

#### <注記事項>

※当ファンドの期首元本額は97,069,179円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は25,815,647円です。

## 投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2016年 1月20日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2024年12月16日		資 産 総 額	73,464,686円
区 分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減又は追加信託	負 債 総 額	62,275円
受益権口数	500,000口	71,253,532口	70,753,532口	純 資 産 総 額	73,402,411円
				受 益 権 口 数	71,253,532口
元 本 額	500,000円	71,253,532円	70,753,532円	1万口当たり償還金	10,301.58円
毎計算期末の状況					
計 算 期	元 本 額	純 資 産 総 額	基 準 価 額	1万口当たり分配金	
				金 額	分 配 率
第 1 期	10,433,410,269円	10,512,140,170円	10,075円	0円	0.0000%
第 2 期	595,370,661	617,594,350	10,373	0	0.0000
第 3 期	1,477,370,980	1,502,108,269	10,167	0	0.0000
第 4 期	1,017,816,636	1,028,021,225	10,100	0	0.0000
第 5 期	829,853,817	886,005,850	10,677	0	0.0000
第 6 期	915,514,568	966,714,258	10,559	0	0.0000
第 7 期	718,885,198	706,573,577	9,829	0	0.0000
第 8 期	219,480,934	218,978,147	9,977	0	0.0000
第 9 期	97,069,179	99,289,011	10,229	0	0.0000

## お知らせ

該当事項はありません。

# ピクテ マルチストラテジー リンク マザーファンド 運用報告書

第9期（決算日 2024年8月26日）

当親投資信託の仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は2015年12月11日から無期限です。
運用方針	投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要運用対象	ゴールドマン・サックス・インターナショナルによって設立された海外籍特別目的会社の発行する円建債券を主要投資対象とします。
組入制限	外貨建資産への投資は行いません。

当親投資信託はこのたび上記の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社

【本運用報告書の記載について】

- ・基準価額は1万口当たりで表記しています。
- ・原則として、数量、額面、金額の表記未满是切捨て、比率は四捨五入で表記しています。
- ・一印は、組入、異動等の該当がないことを示します。
- ・指数に関する著作権等の知的財産権およびその他の一切の権利は指数の開発元もしくは公表元に帰属します。

## 最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 騰 落 中 率	債 券 先 物 率	純 資 産 額	
					債 組 入 比 率
第5期(2020年8月25日)	円 10,695	% 4.9	% 97.0	% —	百万円 27,866
第6期(2021年8月25日)	10,662	△0.3	97.9	—	43,449
第7期(2022年8月25日)	10,043	△5.8	97.5	—	43,727
第8期(2023年8月25日)	10,202	1.6	98.9	—	30,171
第9期(2024年8月26日)	10,387	1.8	97.5	—	26,994

(注) 債券先物比率は「買建比率－売建比率」で算出しております。

## 当期中の基準価額の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	債 組 入 比 率	債 券 先 物 率
(当 期 首) 2023年 8月25日	円 10,202	% —	% 98.9	% —
8月末	10,207	0.0	98.9	—
9月末	10,285	0.8	92.8	—
10月末	10,265	0.6	98.1	—
11月末	10,211	0.1	97.8	—
12月末	10,186	△0.2	97.9	—
2024年 1月末	10,293	0.9	97.9	—
2月末	10,294	0.9	97.9	—
3月末	10,377	1.7	98.3	—
4月末	10,347	1.4	98.1	—
5月末	10,454	2.5	97.9	—
6月末	10,514	3.1	97.6	—
7月末	10,372	1.7	97.2	—
(当 期 末) 2024年 8月26日	10,387	1.8	97.5	—

(注1) 騰落率は期首比です。

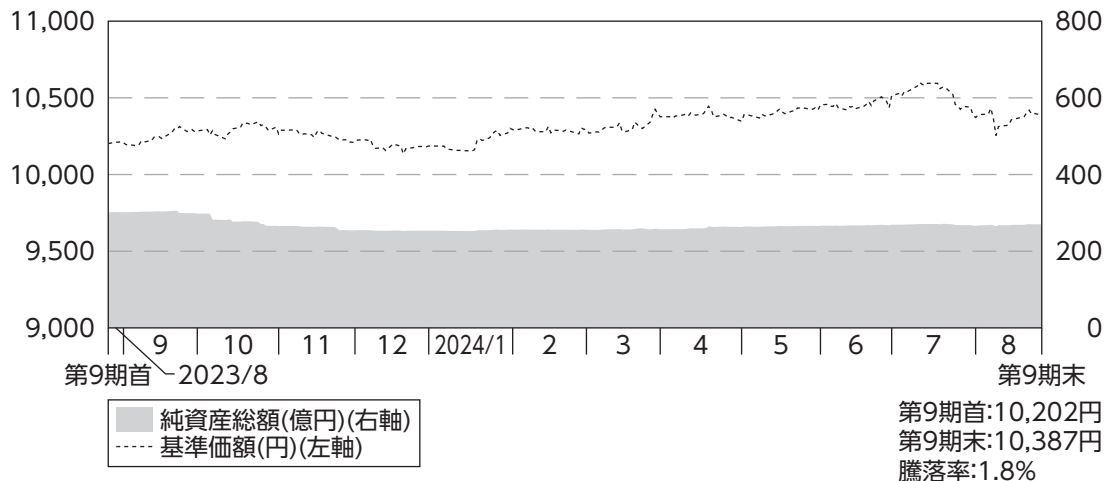
(注2) 債券先物比率は「買建比率－売建比率」で算出しております。

当ファンドの運用の基本方針に適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を特定しておりません。



## 当期中の運用経過と今後の運用方針

### 基準価額等の推移



### 基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は、FRB(米連邦準備理事会)の利下げ転換と米景気のソフトランディング観測に関して市場での織り込みが進んだことなどを背景に、堅調に推移しました。

戦略別では、世界株式などがプラスに寄与した一方、欧州イベント・ドリブンなどがマイナスに影響しました。世界株式は、AI(人工知能)や半導体に対する成長期待と売上モメンタムの改善を背景に台湾の半導体受託製造企業のロング・ポジションなどがプラスに寄与しました。一方で、欧州イベント・ドリブンは、軟調な需要動向の中で収益見通しが市場予想を下回ったデンマークの物流企業のロング・ポジションなどがマイナスに影響しました。

## 投資環境

FRBの利下げ転換や米景気のソフトランディングに対する期待が高まり、米国長期金利が低下したことや生成AIの構造的成長への期待が継続したことなどが背景となり、当期を通じて世界の株式市場および債券市場は上昇(利回りは低下)しました。2024年8月初旬には、米雇用統計や一部企業の業績が市場予想を下回ったことなどを受けて、米景気に対する悪化懸念が高まり世界の株式市場は下落する局面もあったものの、当期末にかけて持ち直しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

ピクテグループの運用会社が運用する外国投資信託証券「Pictet TR - Diversified Alpha」(以下「Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンド」ということがあります。)の基準価額の値動きに概ね連動する円建債券の組み入れを高位に保つ運用を行いました。

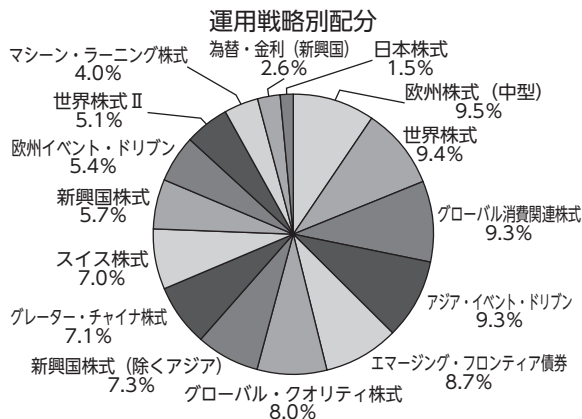
<円建債券と「Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンド」の連動性>  
基準価額への反映期間(2023年8月22日~2024年8月21日)のパフォーマンス

Pictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンド	2.1%
円建債券	1.8%
差異	△0.3%

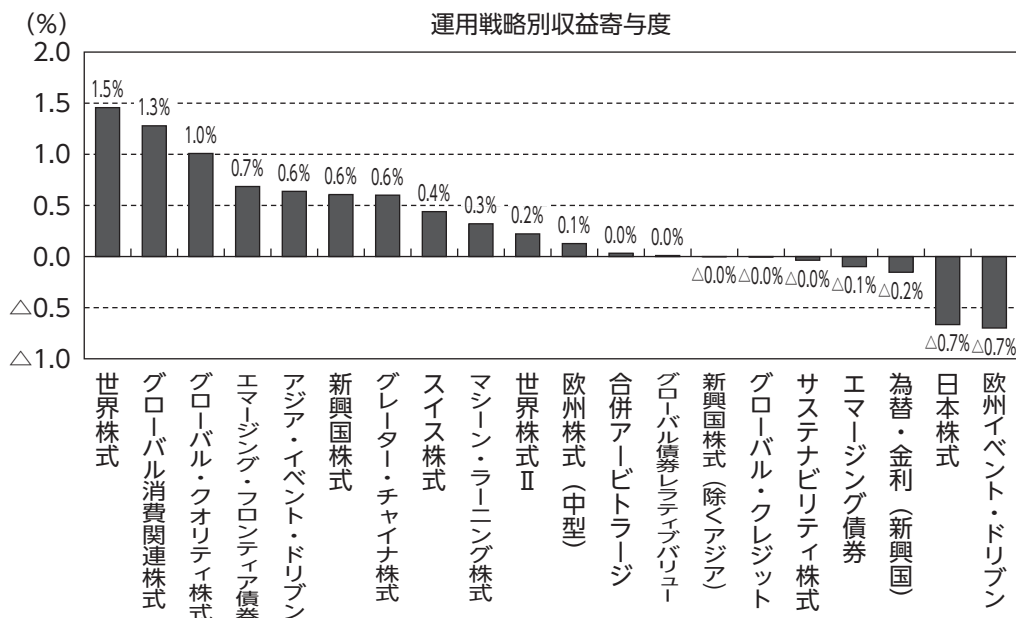
差異の要因は、管理報酬等によるものです。

管理報酬控除後の円建債券のパフォーマンスは概ねPictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドのパフォーマンスに連動しています。

## 当ファンドのポートフォリオ



※配分率は純資産総額に対する割合です。  
 ※2024年7月末時点のPictet TR - ディバーシファイド・アルファ・ファンドの運用戦略別配分です。  
 なお、各戦略については、後掲「各戦略の概要」をご参照ください。



※マシーン・ラーニング株式は、2024年1月8日～2024年8月21日の寄与度です。  
 ※合併アービトラージは、2023年8月22日～2024年7月10日の寄与度です。  
 ※グローバル債券レティブリビューは、2023年8月22日～2023年9月28日の寄与度です。  
 ※グローバル・クレジットは、2023年8月22日～2023年11月15日の寄与度です。  
 ※サステナビリティ株式は、2023年8月22日～2024年2月29日の寄与度です。  
 ※エマーシング債券は、2023年8月22日～2023年12月14日の寄与度です。  
 ※その他の戦略は、2023年8月22日～2024年8月21日の寄与度です。

## 当ファンドのポートフォリオ

### 各戦略の概要

戦略名	概要
エマージング債券	エマージング債券市場における収益源泉(為替、金利等)からリターンを獲得を目指す、トータルリターンアプローチの債券投資戦略。
グレーター・チャイナ株式	グレーター・チャイナ株式(中国、香港、台湾等)市場におけるロング、ショートのリターン創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
グローバル・クオリティ株式	グローバル株式を対象に企業の「クオリティ」に注目し、クオンツを駆使してポートフォリオを構築するマーケット・ニュートラル戦略。大型株と流動性の高い銘柄を中心に投資。
グローバル・クレジット	主に流動性が高い投資適格債券を投資対象とするグローバル・クレジット投資戦略。デレベーション・リスクを極力抑制し、クレジット・スプレッドの相対価値取引によりリターンの創出を目指す。
グローバル債券レティバリュエーション	アンコンストレインド(投資制約の緩和された戦略)かつ柔軟なアプローチに基づく債券投資戦略。ボラティリティを抑制しながら目標リターンの達成を目指す。(主なリターンの源泉は、為替、クレジット・スプレッド、金利等)
スイス株式	スイス株式市場におけるロング、ショートのリターン創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
欧州イベント・ドリブン	欧州大型株を中心としたカタリストに着目したマーケット・ニュートラル戦略。カタリストとして、コーポレート・イベント(M&Aなど)、構造的な勝者と敗者(規制の変更による影響など)等に分類。
欧州株式(中型)	欧州の中型株を中心としたロング、ショートのリターン創出を目指す株式マーケット・ニュートラル戦略。
世界株式	ボトムアップのファンダメンタルズ分析とトップダウンのマクロ分析に基づき、グローバル株のロング、ショートのリターン創出を目指す戦略。
グローバル消費関連株式	グローバルな株式を対象に、主に消費、テクノロジー、メディア、通信等のセクターにおける消費関連株式に注目し、ロング、ショートのリターン創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
世界株式II	企業のファンダメンタルズ分析に基づき、グローバルな株式を投資対象としたロング、ショートのリターン創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
為替・金利(新興国)	流動性の高い通貨および金利(G10および新興国)を対象に、為替スポット、フォワード、オプション等を主要ツールとして使用し、絶対リターン獲得を目指す為替戦略。
エマージング・フロンティア債券	主にフロンティア市場(南米、東欧、アフリカ、中央アジア、中東、アジア太平洋の国々)を投資対象とする債券戦略。デレベーション・リスクを抑制し、金利の方向性などからアルファ獲得を目指す。
アジア・イベント・ドリブン	アジア株式でカタリスト(コーポレート・イベント(規制変更や株主還元など)、M&A等)に着目したマーケット・ニュートラル戦略。
サステナビリティ株式	米国株式を対象に、サステナビリティの観点に注目し、ロング、ショートのリターン創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
新興国株式	新興国株式のロング、ショートのリターン創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
新興国株式(除くアジア)	南米、EMEA(ヨーロッパ、中東、アフリカ)の新興国株式市場における、ロング、ショートのリターン創出を目指すマーケット・ニュートラル戦略。
合併アービトラージ	米国・欧州市場におけるM&A案件に対し、各ディールのプレミアム水準および案件完了に関するリスク等の詳細な分析を行い、裁定取引の機会を発掘することでアルファ獲得を目指す合併アービトラージ戦略。
日本株式	日本株式を投資対象としたファンダメンタルズ・アプローチによる株式マーケット・ニュートラル戦略。
マシン・ラーニング株式	グローバル株式を対象に、独自の非線形モデルに基づき銘柄選定・ポートフォリオ運用を行うシステムティック・マーケット・ニュートラル戦略。

<Pictet TR ー ディバーシファイド・アルファ・ファンドについては、運用会社からの情報に基づき掲載しています。>

## 当ファンドの組入資産の内容

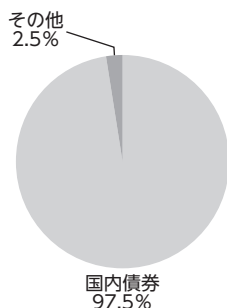
### ○上位10銘柄

順位	銘柄名	国・地域	組入比率
1	SIGNUM GENEVA1 0% 12/15/25	ケイマン諸島	97.5%
2	————	—	—
3	————	—	—
4	————	—	—
5	————	—	—
6	————	—	—

順位	銘柄名	国・地域	組入比率
7	————	—	—
8	————	—	—
9	————	—	—
10	————	—	—
組入銘柄数		1	

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

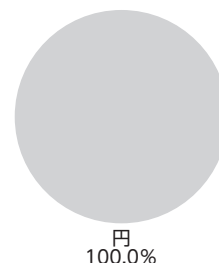
### ○資産別配分



### ○国別配分



### ○通貨別配分



(注) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する評価額の割合、国別配分の比率は組入証券評価額に対する評価額の割合です。その他は未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用の基本方針に適した指数が存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を特定していません。

## 今後の運用方針

主としてゴールドマン・サックス・インターナショナルによって設立された海外籍特別目的会社の発行する円建債券への投資を通じて、ピクテグループの運用会社が運用する外国投資信託証券「Pictet TR - Diversified Alpha」の基準価額の値動きに概ね連動する投資成果を目指します。

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	(2023年8月26日~2024年8月26日)		
	金額	比率	
(a) 売買委託手数料 (株式) (新株予約権証券) (オプション証券等) (新株予約権付社債(転換社債)) (投資信託証券) (商品) (先物・オプション)	-円 (-) (-) (-) (-) (-) (-)	-% (-) (-) (-) (-) (-) (-)	(a) 売買委託手数料 = $\frac{[\text{期中の売買委託手数料}]}{[\text{期中の平均受益権口数}]} \times 10,000$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税 (株式) (新株予約権証券) (オプション証券等) (新株予約権付社債(転換社債)) (公社債) (投資信託証券)	- (-) (-) (-) (-) (-)	- (-) (-) (-) (-) (-)	(b) 有価証券取引税 = $\frac{[\text{期中の有価証券取引税}]}{[\text{期中の平均受益権口数}]} \times 10,000$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用  (保管費用)  (監査費用) (その他)	3  (3)  (-) (0)	0.031  (0.031)  (-) (0.000)	(c) その他費用 = $\frac{[\text{期中のその他費用}]}{[\text{期中の平均受益権口数}]} \times 10,000$ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、信託事務の処理等に要するその他諸費用
合計	3	0.031	

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 「比率」欄は、1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額(10,317円)で除して100を乗じたものです。

## 売買および取引の状況

### <公社債>

		当 期	
		買 付 額	売 付 額
国内	社債券（投資法人債券を含む）	千円 998,582	千円 5,002,492

(注1)金額は受渡代金です。(経過利分は含まれておりません。)

(注2)社債券には新株予約権付社債(転換社債)は含まれておりません。

### 利害関係人<sup>\*</sup>との取引状況等

#### ■ 利害関係人との取引状況

区 分	当 期			期		
	買付額等A	うち利害関係人との取引状況B	B/A	売付額等C	うち利害関係人との取引状況D	D/C
金 銭 信 託	百万円 17	百万円 17	% 100.0	百万円 17	百万円 17	% 100.0
コ ー ル ・ ロ ー ン	176,396	15,424	8.7	176,071	15,274	8.7

(注)当該取引に係る利害関係人は、三井住友信託銀行株式会社です。

### 組入資産の明細

#### <国内(邦貨建)公社債>

##### (A) 債券種類別開示

区 分	当 期				末		
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	う ち B 格 以 下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
普 通 社 債 券 (含む投資法人債券)	千円 24,946,000 (24,946,000)	千円 26,322,021 (26,322,021)	% 97.5 (97.5)	% — (—)	% — (—)	% — (—)	% 97.5 (97.5)
合 計	24,946,000 (24,946,000)	26,322,021 (26,322,021)	97.5 (97.5)	— (—)	— (—)	— (—)	97.5 (97.5)

(注1)組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注2)( )内は非上場債で内書きです。

(注3)評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

##### (B) 個別銘柄開示

銘 柄 名	当 期		末		
	利 率 (%)	額 面 金 額 (千円)	評 価 額 (千円)	償 還 年 月 日	
普 通 社 債 券 (含む投資法人債券) SIGNUM GENEVA 1 0% 12/15/25	0	24,946,000	26,322,021	2025/12/15	
合 計		24,946,000	26,322,021		

※ 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## 投資信託財産の構成

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 26,322,021	% 97.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	672,050	2.5
投 資 信 託 財 産 総 額	26,994,071	100.0

## 資産、負債、元本および基準価額の状況ならびに損益の状況

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

項 目	当 期 末 2024年8月26日現在
(A)資 産	26,994,071,591円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	672,046,224
公 社 債(評価額)	26,322,021,360
未 収 利 息	4,007
(B)純 資 産 総 額(A)	26,994,071,591
元 本	25,989,341,591
次 期 繰 越 損 益 金	1,004,730,000
(C)受 益 権 総 口 数	25,989,341,591口
1万口当たり基準価額(B/C)	10,387円

### ■損益の状況

項 目	当 期 自 2023年8月26日 至 2024年8月26日
(A)配 当 等 収 益	166,056円
受 取 利 息	303,868
支 払 利 息	△137,812
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	501,044,220
売 買 益	501,044,220
(C)そ の 他 費 用	△8,347,516
(D)当 期 損 益 金(A+B+C)	492,862,760
(E)前 期 繰 越 損 益 金	598,206,892
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	65,609,947
(G)解 約 差 損 益 金	△151,949,599
(H)計 (D+E+F+G)	1,004,730,000
次 期 繰 越 損 益 金(H)	1,004,730,000

- (注1) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
(注2) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
(注3) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

#### <注記事項>

※当ファンドの期首元本額は29,573,574,056円、期中追加設定元本額は1,754,890,062円、期中一部解約元本額は5,339,122,527円です。

※当ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は次の通りです。

ヘッジファンドSMTBセレクション(SMA専用)	14,578,898,071円
FOFs用 ピクテ マルチストラテジー リンクファンド(適格機関投資家専用)	10,794,986,497円
FOFs用 ピクテ マルチストラテジー リンクファンドS(適格機関投資家専用)	283,884,285円
サテライト投資戦略ファンド(株式型)	230,727,977円
ピクテ マルチストラテジー リンクファンド(SMA専用)	100,844,761円



## お知らせ

---

該当事項はありません。